

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	繆 寿楽
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 『正理一滴論注』におけるダルモータラの認識論			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	准教授	川村 悠人	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	根本 裕史	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	後藤 弘志	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	末永 高康	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	赤井 清晃	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	護山 真也 (信州大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、近年衆目を集めている中世インドの仏教哲学者ダルモータラ（八世紀頃）の『正理一滴論注』（七世紀の哲学者ダルマキールティ作『正理一滴論』に対する注釈書）を主資料とし、仏教認識論・論理学をめぐる諸概念についてダルモータラ独自の思想およびその背景を描き出そうとしたものである。</p> <p>序論では、ダルモータラに関する基本情報の提示、仏教認識論・論理学における基本概念の説明、ダルモータラ研究史の概観、本研究の目的と方法の提示を行う。</p> <p>本論第一章では、正しい認識による「目的の実現」、正しい認識が備える「欺かないこと」という性質、そして「実在」という表現が指しうる内容についてダルモータラの考えを考察している。まず、ダルモータラが「目的の実現」を「獲得すべき対象の獲得と放棄すべき対象の放棄」と理解していることを示し、とりわけ、彼にとっては認識の顕現そのものが対象の獲得そのものにあたる可能性に注目する。次に、正しい認識が備える「欺かないこと」という性質をダルモータラが「行動対象を示すこと」と言い換えていること、それによって行動の結果ではなく認識それ自体の性質に基づいて認識の正しさの確保を可能としていることを論じる。さらに、「実在」という表現の使用例を精査した上で、それが大きくわけて「知覚と推理の対象」と「知覚の対象としての概念化・言語化を離れたもの」という二種の指示対象を持つことを明らかにしている。</p> <p>第二章では、ダルモータラによる「概念知」の理解および彼が認識対象に対して設定する二種の「知覚可能性」について考察している。まず、ダルモータラが概念知を「近在しない対象の顕現を有する認識」としていること、それによってダルマキールティの概念知定義が抱える問題点をダルモータラが回避していることを示す。次に、ダルモータラが「本質的な知覚可能性」（対象が誰にとっても観察可能であること）と「条件付きの知覚可能性」（対象の知覚に必要な条件の存在または想定）という二種の「知覚可能性」を設定していることを指摘し、何らかの対象の非存在を認識する際に後者の「条件付きの知覚可能性」がどのような形で</p>			

働くのかを論じている。

第三章では、「自身の言明によって退けられる命題」（自身の言明と矛盾する命題）、「擬似的な命題」、「他の命題ならざるもの」という三種をとりあげてダルモータラの命題論を考察している。まず、「自身の言明によって退けられる命題」とは一つの命題中で矛盾を抱える命題でなく、別の命題との矛盾を抱える命題であることを指摘する。次に、「擬似的な命題」と「他の命題ならざるもの」が備える性質の違いを論じて、両者が同一のものではないことを示している。

結論では、ダルモータラがダルマキールティの思想を踏まえた上で自らの思索を発展させていること、それゆえダルモータラを、単なる注釈家ではなく一人の哲学者として評価、研究していくことの必要性を述べている。

付論では、『正理一滴論』および『正理一滴論注』に対する全訳を提示している。

方法論や他文献の精査などの点で若干の不備が認められるものの、高度なサンスクリット読解力と高い論理的な思考力のもと示唆に富む議論や指摘がなされており、全体として、インド哲学研究の深化と発展に貢献する貴重な研究成果であることに疑いはない。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)